

ヤリサーとは知らずに入会した美少女が
新入生歓迎合宿(りんかん合宿)で輪○されちゃう話・・・

入部した ヤリサーの新入生歓迎 合宿に間違って参加してしまった 清楚なルックスの女の子

新入生 城崎 唯はそれがヤリサーだとは知らず 勧誘に負けて

新入生歓迎合宿に参加することになってしまう。

温泉付きのペンションを彼らは 貸し切りで予約しておりそこで一夜の淫らな宴が開かれる・・・

美少女 城崎 唯は 先輩たちの格好の餌食となっていく・・・

本編より・・・

唯はもう 抵抗が出来ない・・・

【動画を脅しに使うなんて・・・

私・・・どうなっちゃうの・・・】

「どうかしら この割れ目・・・感度は・・・」

「ぴったり閉じてる」

「ちょっと開いてみましょう・・・」

唯のあそこは割れ目を開かれると

左右均等に整った 控えめな小陰唇が

覗いてくる・・・

そして開かれた 頂点には小さな突起があった・・・

「あらまだ剥けてない」

と先輩たちが そこを 唾をつけて 撫で回す

「やめてください」

言っても その流れは止まらない・・・

そして別の先輩がその瞬間を写真に撮る

「あら いい写真・・・やっぱりグループチャットにアップしちゃおうかしら」

写真には唯の恥ずかしい場所がはっきり映っている・・・

そして、その表情も・・・

「やめてください」

唯はカメラに手を伸ばす・・・

「あんまり 暴れるとグループチャットに乗っけちゃうからね 」

唯を取り押さえている先輩が言う・・・

唯は抵抗することも出来ず・・・

女の先輩たちの執拗なタッチを受け入れざるを得ない・・・

しつこい・・・いやらしい・・・そのタッチを・・・

クリトリスを撫でられ・・・

そして啜えられしゃぶられる・・・

敏感な突起を執拗に触られると・・・

ついに 唯の中からは愛液が溢れてきてしまった・・・

「あら・・・もうここ・・・ヌルヌルになってきたじゃない」

「もう、いいんじゃない」

先輩は 人差し指を唯のナカに入れ込んでいく・・・

本編より2・・・

開かれた浴衣から覗くのは・・・

唯が身に着けるのは、あのスケスケのブラとショーツ・・・

「やだ 恥ずかしい」

「おお、スケスケ・・・」

「いやらしい・・・」

「いやらしい下着・・・」

「こんなもの つけるなんて・・・エッチ・・・」

「乳首・・・見えちゃってる・・・」

「ほんと いやらしい子だ・・・」

「あそこも割れ目・・・見えちゃってるよ・・・」

「エロい・・・」

「エロ下着・・・すげえ・・・」

みんなが口々にいやらしい・・・えろい・・・と唯に言葉を浴びせる・・・

「そっ そんな 好きでこんな下着・・・つけてるんじゃないのに・・・」

唯は小さな声でつぶやく・・・

「いやらしい下着姿もっと見てもらいましょう」

富谷は唯の後ろに回ると膝カックンをして

唯をひざまずかせる・・・

空かさず浴衣を取り去り・・・

唯を仰向けにマットレスに横たえた・・・

「やめてください・・・こんなっ・・・」

そのまま大きく脚を開かされた・・・

「やだっ やめてください・・・」

唯は真っ赤になって手で局部を隠そうと手を伸ばすが

4人がかりで四肢を拘束されてしまった・・・

「いやあ やめっ やめてください・・・」

「おおっ 割れ目 見えてんじゃん」

唯の穿かされているショーツはクロッチレスであった。

股布すらなく・・・透けた荒いレースの向こうに中身は丸見えだ・・・

「うわっ えろっ」

「かわいい顔して大胆じゃん」

「私が選んだんじゃないのに・・・」

唯はつぶやく・・・

【こんなの・・・恥ずかしすぎる・・・】

羞恥で唯は心臓の鼓動が早くなる・・・

ドキドキする・・・

四肢を拘束され大の字で・・・

大きく開かれた脚・・・

恥ずかしい姿・・・

見られる自分の恥ずかしいところ・・・

隠すことも出来ずに晒されている・・・

女の子の一番恥ずかしいところ・・・

【見られてる・・・】

唯はカラダの奥から熱い粘液が溢れてくるのを感じていた・・・

ここからは本編でお楽しみください・・・